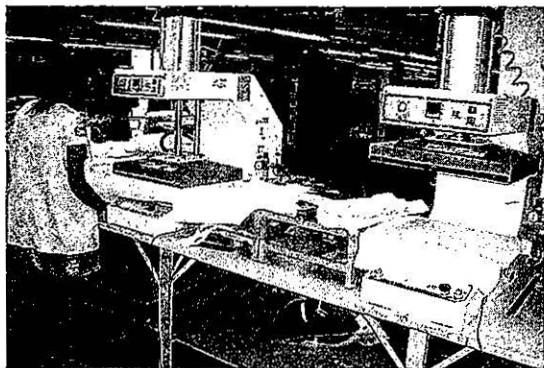


生地手配からサンプル・本生産、貿易一貫 トータルコスト合理化を提案

蘇州マッコニー



各種の加工工程を内製化

高級婦人服製造の蘇州マッコニーは、委託加工型縫製メーカーからステッパアップ、生地の開発、サンプル縫製、2次加工の内製化、FOB（本船渡し価格）での事業推進などによる新たなメーカーを目指している。

同社は大手ファッション企業ブランドとの取り組みを中心としているが、「生地・副資材手配からサンプル・本生産、貿易までの一貫の仕組み提供がトータルコストを合理化、品質・納期も安定すると顧客から支持されている」（會藝文社長）とする。

蘇州マッコニーは、アパレル生産グループ、マッコニーホールディングスの主力生産拠点。H&Mの「コス」、マックスマラーの「マックスアンドコー」に続いて、米国のネット販売ファッショ

ンブランド「エバーレイン」の生産量を増やしている。また初の試みとして中国北京の高級婦人服ブランド「吉芬」（JEFEN）との取り組みに着手している。

日本向け縫製では、13年末にグループ入りした旧四国ソーイング傘下の上海青菱高級時装と四国時装の2拠点对応。マッコニーホールディングスでは、蘇州マッコニーのビジネスモデルが、「中国拠点の縫製工場の最適モデル」として日本の大手ファッションメーカーなどにもアピールしている。

また、この3年間、設備のグレードアップに取り組んだ。加工を外注に出す仕組みでは「1カ月当たり1,000点を超えるサンプル生産のスピードアップに限界がある」ため、レーザーカットやシームレス加工、フリース、刺繍などの加工関連設備を導入した。

生地手配や開発、貿易などの製造以外の部門を増員。並行してこの3年間で、本社縫製ラインを15から12に、縫製ワーカーも800人から500人に合理化した。蘇州地区での外注先縫製工場15社のネットワークは「本社工場と同レベルの縫製能力として、顧客に情報公開している」と、委託できるものは外部に出している。

「FOB納品で納入単価を決める方式が商談が早い。また納期や品質が縫製工場レベルで安定化する」として、今後この仕組みをさらに強化する。